

幼稚園教員養成課程における造形表現力と感性の育成に関する研究 ～領域「表現」における造形面に関する指導を事例として～

黒田 謙 二¹
板橋 夏 樹²

本研究では、『幼稚園教育要領』の領域「表現」に示された表現と感性の関わりを重視した実技、演習を通じた受講者の造形的な思考・技能・技術等のスキルを高めつつ、学生自身の感性をも豊かにする授業プログラムを開発・実践した。活動の中心として、感性を刺激するような四季折々の行事や子どもの生活に結びつく事象等を壁面装飾、掲示物という形で製作した。製作の過程では、「幼児教育は環境を通して行うもの」という視点をもって進めた。また、壁面構成は保育室を楽しくする演出や効果、子どもとのコミュニケーションを促進する効果がある。学生はこのような思いを持ちながら創意工夫し、自らの感性を働かせながら取り組んだ。製作内容は、壁面構成の他、粘土遊び、おもちゃ作り、収穫物の絵、園庭のデザイン等である。

Keywords : 領域「表現」、造形、表現力、感性

1. はじめに

2018年度（平成30年度）から新しい『幼稚園教育要領』に基づいた保育が実施された。同文書の第2章に感性と表現に関する領域「表現」がある。これは感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするとして、ねらい及び内容が示されている。それらを踏まえ、幼稚園教員養成課程における領域「表現」の授業では、保育者が子どもの造形活動をどのように理解し、どのように関わり、環境を整えていけばよいかについての内容を展開しなければならない。

筆者は、県内の幼稚園を何度か訪問する機会があり、どの幼稚園においても園舎内は温かさと夢のあふれる雰囲気満ちていた。それは掲示物や掲示装飾が訪問者までも温かく包み込むような心を動かす環境になっていた。この園の環境づくりは誰がどのような思いを持ってなされたのか、園長を中心に先生方の心を込めた業であることは言うまでもない。言葉での表現もまだ途上にある幼

児にとって掲示物や掲示装飾など視覚を通して入ってくる情報はコミュニケーションとしての重要で大切な役割を担っているとあらためて認識させられた。

今年度、幼稚園教員養成課程の学生に対して講義を持つにあたり、幼児教育の総合的な見地を踏まえながらも領域「表現」における造形的な表現に対する力を養うことの必要性を改めて感じた。『幼稚園教育要領』には以下の3つのねらいが示されている。

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

このように、『幼稚園教育要領』の中で「表現」と「感性」の関わりを強調していることから、学生自らの持つ感性を豊かなものにし、造形表現力を高める授業計画を作成することが必要であると考えられる。

また、『幼稚園教育要領』には、領域「表現」の内容として次の8つの項目が示されている。

1. 宮城学院女子大学非常勤講師
2. 宮城学院女子大学教育学部

- (1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝える楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

以上に示すように、保育者を目指す者にとって、造形表現の力を発揮する場、必要とする場、試される場に置かれること、直面することは否定できない事実であるだろう。そのようなことを考えたとき、学生には幼児理解に結び付くこの造形表現の力と向き合い、しっかりと身に着け、さらには自身の感性を豊かなものにするを求められる。

2. 目的と方法

本研究では、領域「表現」における「表現と感性」の関わりを意識し、学生自らの持つ感性と造形表現力を高めるより良い授業プログラムを構築することを目的とする。そこで、本研究では、上記の目的に沿った授業計画を構想・実践し、受講者の変容を見ることで、試行した授業プログラムの有効性を検討する。

3. 受講者の実態

初回の授業で、受講者の造形に対する普段の生活との関わりを知るために、受講者を対象に、質問紙を用いたアンケートを実施した（調査対象者：M大学教育学部1年生21名、実施日：2020年9月16日）。その結果を図1～9に示す。

1 本の表紙や車内広告やポスター、イベントのチラシ、ショーウィンドウのディスプレイ等を宣伝媒体としてではなく、一つの美術的表現(芸術表現)として見ることはありますか。

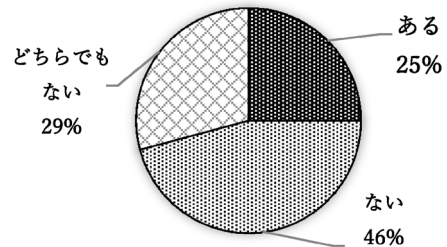


図1 造形的視点に立った観察経験の有無

2 美術館や美術の展覧会に行ったことがありますか。行ったことがある場合は具象と抽象のどちらの作品が好みですか。

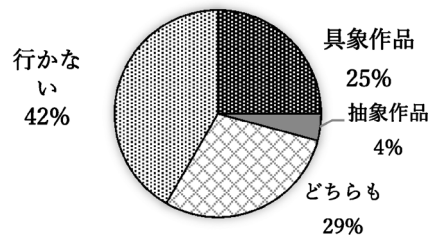


図2 美術館に行った経験の有無

3 最近何かに感動したことがありますか。

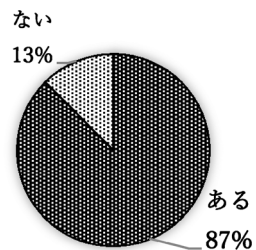


図3 感動した経験の有無

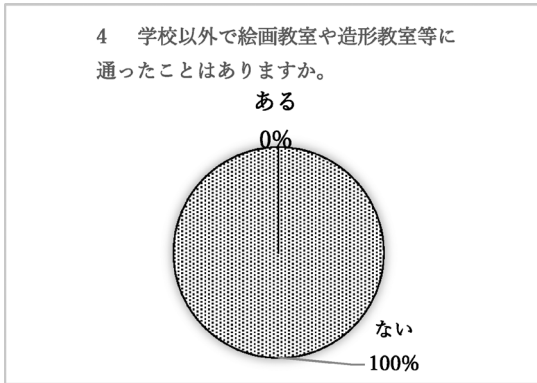


図4 学校外での造形教室の経験の有無

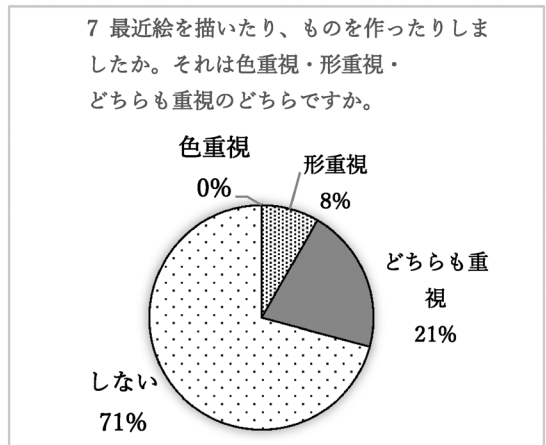


図7 造形経験と重視する観点

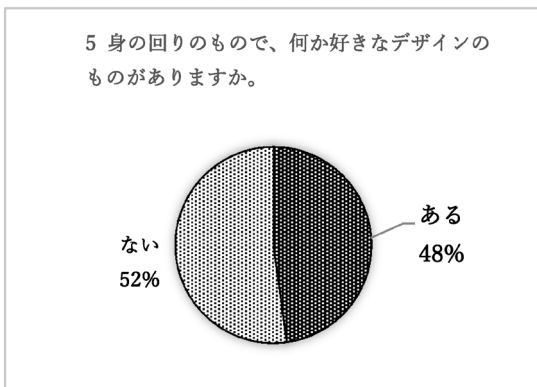


図5 好きなデザインの有無

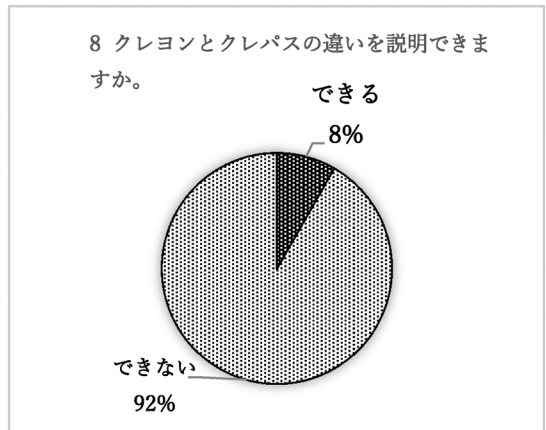


図8 クレヨンとクレパスの知識の有無

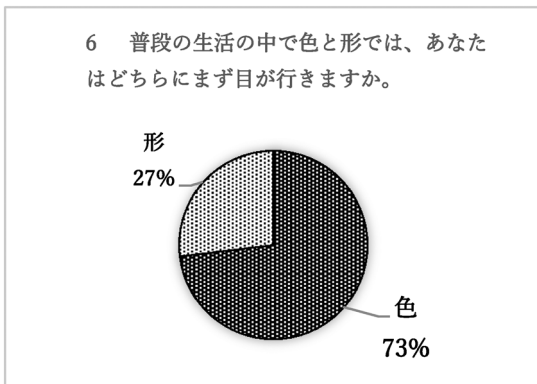


図6 受講者の注目する色と形

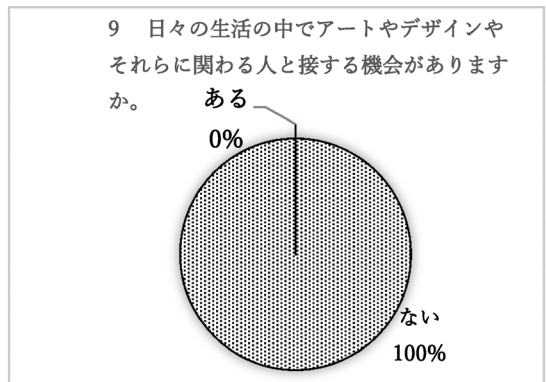


図9 造形関連の従事者との接点の有無

受講者の表現に関する各種の経験の内容を図4、7、8に示す結果から、受講者全員が学校外の造形教室に通った経験がないこと、また、最近美術製作を行った経験がない者が71%いたことから、多くの受講者が造形に関する経験を大学入学以降に有していないことが明らかとなった。また、クレヨンとクレパスの違いを説明できない受講者が92%であることから、保育で使用する教材に関する知識が低いことを読み取ることができる。さらに、図1、2、6に示す結果から、目前にある様々な宣伝媒体を芸術表現として意識することが少ない、また、デザインに対するこだわりが半数以上の者が持っていないことが分かる。一方、多くの受講者が普段の生活では、形より色を重要視する傾向があることが分かる。さらに、図3に示すように、何かに感動した経験をもった者が87%いたことから、受講者の多くが情緒的な豊かさを持ち合わせているとみることができる。

質問10では、この授業でどんなことを学びたいかを記述式で尋ねた。その結果、次のような記述が見られた。

- ・子どもたちが主体となる保育ができるように様々なことを自分自身で体験し、子どもたちの気持ちを考えられるように学んでいきたい。
- ・子どもたちのよさを引き出す指導の仕方。
- ・子どもの表現の読み取り方、造形表現するときの知識や工夫。
- ・絵を描くこと、ものを作ることに自信をもって子どもに教えられるようになること。
- ・幼児がのびのびと表現するための教師の働きかけ。
- ・絵を描くことが苦手なので少しでも克服し楽しく学びたい。
- ・幼児とともに楽しみながらものづくりができるような技術や技法。
- ・造形表現を自分の視点と子どもの視点でみることができ、そこから伝わる思いなどが読み取れるように頑張りたい。
- ・子どもたちの気持ちや考えを主張する手段としての造形表現の大事さとそれに対して私たちがどう環境をつくっていくか。
- ・絵を描くことやものを作ることの楽しさ。
- ・子どもの絵や作品から感じ取れるものを学び

たい。

- ・子どもの描く絵を理解する力、見る力、想像力。
- ・造形について幼児の気持ちを理解し見たら楽しくなるようなものの作り方を学びたい。
- ・造形についてまず自らが楽しめるようにしたい。
- ・幼児が安全に遊ぶおもちゃ作り。季節に合った工作など。
- ・子どもが考えたことや感じたことを自由に表現できるようにする導入の仕方、環境づくりについて。
- ・幼児が積極的に創作活動をするための環境づくり。

受講者が日々の生活の中で造形面での関わりや意識はそれほど高いとは言えないものの、将来を見据えて今、学ぶべきことについては、子ども理解のために造形面からの必要性を前向きに捉えていることが伺える。

図10は得られた記述内容をテキストマイニングにより分析を行った共起ネットワークである。この分析では、樋口が開発したソフトウェアKH Coder3KH Coder3を使用した(樋口、2004)。KH Coder3はテキストマイニング用のフリー・ソフトウェアである。その結果、受講者は、「絵、描く、学ぶ、楽しい、作る」また、「子ども、造形、表現」の関係を強く意識していることが分かる。特に、「絵、描く」を強く関係づけて記述していることから、受講者が「表現」をする際の絵の重要性を強く持っているということが出来る。

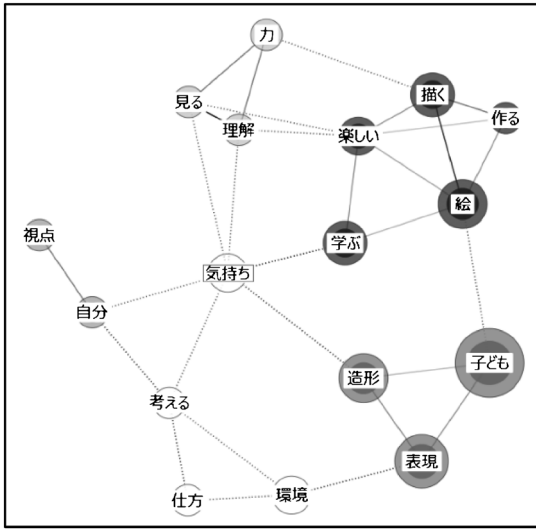


図10 問10の記述内容の共起ネットワーク

4. 授業プログラムの検討と考察

本研究では「表現と感性」の育成を実現するため、『幼稚園教育要領』の領域「表現」に示された8つの内容項目を踏まえた授業プログラムを開発・試行した。また、実施の際は、受講生から得られたアンケート結果を考慮した。特に図7のアンケートの結果に示すように、造形に関する表現活動の経験をもつ受講者が少ないことを考慮し、受講者自身が表現活動を行うことを通して学びを深めることができたようにした。

4-1. 季節や伝統行事をテーマとした掲示物の製作と指導

第2、3、6、9、12、13回の授業では、日本の四季や伝統行事（正月）を題材とした掲示物作成を通して表現技法を学ぶと同時に、幼児の指導の在り方を学ぶ内容とした。これらは『幼稚園教育要領』の領域「表現」の内容項目の(1)(3)(7)に該当している。

4-1-1. 季節「夏」をテーマとした授業

第2回では、「幼児の造形表現活動の実践例～「季節『夏』に関わる製作と指導法」と題して、グループワークを行った。

○目標：幼稚園教育要領の領域「表現」（造形面）のねらい及び内容の取扱いを理解する。季節「夏」

に関わる作品を製作することによって、幼児への造形表現の関わり方を学ぶ。

○演習：「保育室の装飾物を作ろう」というテーマで、「潜水艦で海の中を探検する」と題して、1班5名によるグループワークを行い、教室の壁を幼児と先生と一緒に飾ろうという想定である。

○レポートの課題：「季節夏に関わる製作と指導法」の振り返り

○授業後の受講者の感想と考察：

「私たちの班は他の班とは違った視点から作品を作っていた。」「他の班の作品はとてにぎやかで、夏の楽しさを感じられる作品だった。」「思ったことを形にして表現することは一見簡単そうに見えるが難しいことだと思った。だからこそ、作品を作る子供に対しての言葉がけは本当に大切だと思った。」

以上の感想から、受講者が、それぞれの班が異なる視点で製作したことや、幼児への言葉がけの大切さ等を必要性を強く認識したことが分かる。



図11 夏に関わる製作事例

4-1-2. 壁面装飾の意義に関する授業

第3回では、「教材の提示、展示の実践例」と題し、「壁飾りや壁面構成」に関する演習を行った。○目標：〔幼稚園指導要領の領域「表現」及び「環境」に関連する授業〕「壁面構成」

「壁面装飾」は保育室内の壁面を教師や子どもの作品等で飾ることを意味する保育界の用語として用いられている。幼児教育は環境を通して行うことが大きな要素であり、幼稚園、保育所におけ

る「壁面装飾」は保育における生活空間、生活環境を構成する一部としての役割を果たしている。今日の授業は前回実践したことも踏まえ、保育環境における壁面装飾の意義について捉えながら、壁面の装飾や、展示、構成の仕方を考えて実践する。

○演習：「入園おめでとうの装飾物又はポスターを作る」保育室や廊下の掲示板等に掲げることを想定、入園の意義を考える。

○レポートの課題：「入園おめでとうの装飾物又はポスターを作ろう」の振り返り

ここでは、①入園の意味、②保育室に必要な雰囲気、③壁面装飾で重視すること、の3つのポイントを意識させて製作を行わせた。

○授業後の受講者の感想と考察：

「テーマが入園だったのでまず、入園できる喜びを表そうと思い、様々な動物たちを描いて楽しい雰囲気を作った。」「子どもたちがパッと見てわかりやすいようにできるだけ大きく、目につきやすい明るい色で「にゅえんおめでとう」の文字を書いた。」「躍動感をつけるため、わざと用紙からはみ出して文字の色紙を貼った。」

以上の感想から、受講者が幼児の発達段階を想定し、幼児の興味・関心を引くような動物と配色を意識した画面構成を検討したことが伺える。



図12 壁面装飾に関わる製作事例

4-1-3. 季節「秋」をテーマとした授業

第6回では「幼児の造形表現活動の実践例～「季

節『秋』に関わる製作と指導法」と題し、グループワークを行った。

○目標：季節『秋』に関わる作品を実際に製作することによって、幼児への造形表現指導の在り方を考える。

○演習：「園内の教室の装飾物を作ろう」（壁を先生と幼児一緒に製作し掲示する）

「秋」と言ったらどんなことを思い浮かべるか、一人一人考える。赤とんぼ、ぶどう、運動会、コスモス、演奏会やお遊戯会等、お月見、芋ほり等秋の実り、収穫祭、ハロウィン……、たくさん思い出してみる。（幼児の経験、体験、イメージ等）3、4、5歳児を想定した「園の中を秋で飾ろう」壁の掲示を作る。

【受講者が選択する製作内容】

①「ぶどうがり」…子どもたちが大好きなぶどうの壁面で保育室を秋色に！立体的なぶどうは色画用紙を筒にした枝からぶら下がっているように飾る。

②「スズムシたちの秋のえんそうかい」…耳をすませば、スズムシたちの奏でる音色が聞こえてきそうな壁面を作る。キノコは色の組み合わせを楽しんで作る。

③「大きなおいもがとれたよ」…太っちょのお芋、細長いおいも、どんなお芋がとれるかな？、等内容で秋の味覚を代表するお芋を立体的に表現する。

○レポートの課題：「季節秋に関わる製作と指導法」の振り返り

○授業後の受講者の感想と考察：

「秋に関わる製作ということで、一番は秋の季節が感じられるように色合いや季節を感じられる植物や食べ物、生き物をたくさん取り入れるということに気がつけた。」「色合いも赤色、茶色、黄色など秋っぽい色だけではなく、子どもが見て楽しい雰囲気になるように色のバランスに気がつけた。」「丁寧に製作することはもちろん、紙全体いっぱいを活用してきのこやスズムシなどの1つ1つの大きさに気をつけて作った。」

以上の感想から、受講者が「秋」という季節から幼児が連想すると予想される植物、生物、食物

を豊かに想像していたこと、また、それらに基づいた指導の在り方について深く検討できたことが伺える。



図13 秋に関わる製作事例

4-1-4. 季節「冬」をテーマとした授業

第9回では「保育を想定した活動」と題し、季節『冬』に関わる製作と指導法をグループワーク形式で行った。

○目標：季節の掲示物づくりに取り組む。

周囲はすっかり冬の装い、“冬色”が日増しに強くなってきた。そうした雰囲気を幼児も無意識に感じ取っているに違いない。そうした冬への思いを込めて「わくわく ふゆが やってきた！」をテーマに冬の掲示物を製作するとともに幼児への造形表現の関わり方を考える。

○レポートの課題：「季節冬に関わる『わくわくふゆがやってきた』の園内掲示製作と指導法の振り返り

○授業後の受講者の感想と考察：

「一目見て冬を感じられるような色どり、景色を意識した。子どもたちはサンタさんを信じているため夢を壊さないようにクリスマスを表現した。冬＝雪のイメージがあり、立体的にリアルに表現するために屋根などに雪を積もらせた。」「真夜中のメリークリスマスというテーマで、プレゼントや雪だるまなど特に子どもたちがわくわくしそうなものをたくさん作った。こだわった部分は真っ暗な空に多くの星がキラキラ輝いているようにし

たところ、家の扉をパカパカできる仕掛けを作り、開くとサンタさんを待っている女の子がのぞいているようにしたところ。」

以上の感想から、受講者が「冬」という季節から幼児が連想するクリスマスに関する登場人物や雪だるまなどを想像できたこと、また、これらを活用して幼児の興味・関心を高める動く掲示物の工夫を行うことができたことが伺える。



図14 冬に関わる製作事例

4-1-5. 伝統行事をテーマとした授業

第12回では「年中行事と造形表現（行事における子どもの表現活動）」と題し、「新春の製作物」に関するグループワークを行った。

○目標：一緒に遊びを楽しみながら、教師が実際にコマやけん玉、凧などを作ってみせることにより、幼児も「自分も作って遊びたい」という気持ちが持てるようにする。

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「環境」にあるように、年中行事では、昔からの伝統を学ぶことはもちろんのこと、人の心を大切にすることを保育者も子どもたちと共に学ぶことを忘れないようにするようにしたい。昔から伝えられている知恵に共感する心、先祖を大切にしている心、相手を思いやる心、家族に対する愛情あふれる心、自然の恵みに感謝する心など、常に善意ある関心を持ち、年中行事を通して「心」を育むことが大切である。

年中行事から「お正月」を導入し、幼児が遊べ

る新春・お正月の掲示物を製作した。この内容では、これまで作成してきた掲示物を発展させる形で、「見る」掲示から「遊べる」掲示へとという課題で取り組んだ。遊んだ後も掲示物として園に飾れるように構想させた。受講者は、おみくじを引くようなしかけを作ったりカルタを取ったり、干支である丑の顔の福笑いをつくるようにしたり、幼児が楽しめるような仕掛けを工夫して作っていた。これらの様子から、これまでの掲示物の製作で学び得た幼児の興味・関心を高める配色や動きのある仕掛けやレイアウトに関する知識と経験を経験的に用いた作品作りを行うことが出来ていたと考えられる。



図15 正月に関わる製作事例



図16 お正月の掲示製作物の製作の様子



図17 グループ毎の製作意図の発表の様子

4-1-6. 季節「春」をテーマとした活動

第13回では「季節『春』に関わる製作と指導法」と題し、保育の構想と演習を行った。

○目標：これまでの類似した既習の内容を踏まえ、季節『春』に関わる作品を構想し、実際に製作することによって、幼児への造形表現の指導の在り方を考える。

導入として、幼児の経験、体験、イメージを掘り起こし、それらを大切にするようにする。

○演習：園内を『春』というテーマで装飾物を作る。

壁などを先生と幼児一緒に作っていくことを想定する。卒園や入園、たくさんの思い出がやってくる春、芽吹き季節であることも踏まえて例として植物を連想させるなどする。大いに幼児の心を刺激し、幼児の感性を形成する一つの芽生えにつながることも考えられる。

4-2. おもちゃに関する製作と指導

第4、7、14回の授業では、空き缶や紙コップといった身近な素材を活用したおもちゃ作りという表現活動を通して、幼児の指導を学ぶ内容とした。これらは『幼稚園教育要領』の領域「表現」の内容項目の(1)(5)(7)(8)に該当している。

4-2-1. 空き缶を用いた授業

第4回では、「身近な素材を用いた表現活動」と題し、「転がる手作りおもちゃ」に関する演習を行った。

○目標：幼児期と造形表現について学び、模擬体験で実際に作ってみることにより、幼児の造形表現の指導の仕方を考える。

○幼児理解のポイントを知る。幼児期は、造形活動（造形表現）がとても活発である。人間の生涯の中で、絵を描いたりものを作ったりするようなことを専門の職業とする人は別にして、普通一般の人は青年期、成人期そして老年期等と比較して、幼年期は絵を描く、ものを作るということにとっても積極かつ活発である。また、幼児の生活のほとんどが「遊び」につながるが、この「遊び」には造形的な要素がきわめて多く内在している。

○演習：身近な素材を用いた表現活動～演習（手作りおもちゃ～転がる）

「コロコロ転がる回転おさるさん」をモデルに動きが楽しい手作りおもちゃを作る。空き缶を転がすと、おさるさんがクルクル回転しながら進んでいくよ。お友だちと一緒に「よーいどん！」競争するのも盛り上がりそう。いろいろな動物や人間などでも楽しめそう。アレンジ自在の造形活動！

○レポートの課題：「造形表現を考える」として、次の3点について考察をさせた。

①子どもにとっておもちゃはおもちゃではなく、「遊び道具」と言われることがある。このことについてあなたの考えを書きなさい。

②「よい遊び道具」とはどんなことを言うのでしょうか。あなたの考えを書きなさい。

③今日の活動からあなたはどんなことを思い、これを次に何につなげたいと思いますか。

○授業後の受講者の感想と考察：

「身近にあるものを使って友達と競い合えるような遊び道具を作ったのは久しぶりで単純に楽しいなと思った。」「何かを作るというのは大受講者の私ですら楽しいと感じたので、子どもたちにとってはもっとワクワクするような楽しい時間なのではないかと思った。」「身近なものを使って簡単に分かりやすく、それでいて個性が出るようなものを作って子どもたちに教えてあげられるようになりたいなと思った。また、安全に楽しく作る

ことも大切だと思った。」「危険なところや難しいなと思ったところを知り、子どもたちがどこまで自分たちで作れそうか考えることができた。』

以上の感想から、課題製作を通して、受講者が動くおもちゃで遊ぶ際の幼児の心の動きを想定するだけでなく、幼児の個性を生かすための手立てや安全指導についても考えるようになったことが伺える。



図18 転がる手作りおもちゃの製作事例

4-2-2. おもちゃの意義に関する授業

第7回では「教材活用実践例の研究「幼児とおもちゃ」と題し、幼児に対するおもちゃの意義、年齢別特徴、素材比較等を行った。

○目標：幼児にとって「おもちゃ」は成長に欠かすことのできない生活の道具「遊び道具」であることを理解し、その意義や年齢からみたおもちゃの特徴、おもちゃの素材等について理解する。

○演習：提示された数種のおもちゃの中から一つ選び、そのおもちゃと幼児との関わり、どんな発達に関連してくるか考える。

○レポートの課題：「考えてみよう～四コマ漫画（指導者自作）から」の振り返り

4-2-3. 紙コップを用いた授業

第14回では「紙コップという身近な素材を用いた表現活動」と題し、保育の構想と演習を行った。

○目標：幼児が関わることになる教材について、素材としての性質や特徴などを適切に把握する。また、それらが持つ特性に保育の中の「遊び」と

いう視点から改めて価値を見出す。

○内容：私たちの身の回りには生活の中で使用された割りばし、ストロー、様々な包装紙や新聞紙、あるいは発砲スチロール、紙コップや紙皿、牛乳パックといった紙の容器、木切れ、空き瓶、空き缶、ペットボトルといった身近に材料に成り得るものがたくさんある。これらについて、この製作の魅力を捉えてみると次の3点が考えられる。

- ①子どもにとって身近であるため、材料に触れる経験がスムーズに行われやすいこと。また手に入れやすい。
- ②多様な材質、形体、色彩があること。発達段階、必要感など、子どもの興味や関心に対応した材料が選べること。
- ③生活の中で使用された機能とは別の要素に目が向けられること。別の「もの」に生まれ変わる。そのことが、創造性につながる。

○演習：材料として紙コップを用い、何をどのように作っていくのか、幼児がイメージしやすく「作ってみたい」「おもしろそう」「遊んでみたい」という導入を工夫し、製作する。

4-3. 絵を中心とした製作と指導

第8、10回の授業では、絵の表現活動を通して、幼児の指導を学ぶ内容とした。特に図5、7、8のアンケートの結果に示すように、配色やデザインに関する意識が低いことや、表現するための道具についての知識が受講者に少ないことを考慮して、授業内容を計画した。これらは『幼稚園教育要領』の領域「表現」の内容項目の(1)(2)(3)(4)(7)に該当している。

4-3-1. 絵を描くことの意義に関する授業

第8回では、幼小の接続、美術教育としての幼児教育における「絵を描くことの意義」について、ディスカッション等の形態を取り入れたアクティブラーニングによる受講者同士の話し合いを行った。

○目標：幼児の絵の見方及び指導の仕方を理解する。

○幼・小の接続を踏まえ、美術教育～幼児教育に

おける「絵を描くことの意義」ディスカッションを行う。

○授業のポイント：「描きたいものを自由に描いてみよう」「何でもいいから思ったことを、思った通りに描いてみよう」という課題を教師が発問した場合、受講者には次のような疑問が生じることが想定される。すなわち、「これらの指示は本当に子どもの自主性や個性を尊重するということなのか。」「子どもの成長にとっての自主性や個性の尊重ということとはどのようなことを言うのか。」「子どもは自由でなければならないということは、大切にしたい点ではあるが、だからと言って、何もアドバイス等をしないで任せきり、放任の中では子どもの成長は停滞し、乱暴な、それこそ不自由な偏った表現しかできない子どもになってしまうのではないか」という類のものである。本授業では、以上のような意見を念頭に置きながら、幼児の絵の指導、幼児の絵の見方を学習していく。さらに、幼児の絵の年齢からみる特徴、幼児の絵に共感するために、幼児の絵の鑑賞を行う。

○演習：「幼児の絵を指導してみよう」幼児の描いた絵に対する言葉がけを構想し、模擬指導を行う。

4-3-2. 絵を描くことをテーマとした授業

第10回では「指導案と保育の展開の実際」と題し、「絵の具による描画・着彩キュウリを描こう」についての演習を行った。

○目標：指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案について知る。

第8回の授業で学んだ「絵を描くことの意義」を確認し、発展として幼児の絵の指導を実際に描くことによって体験する。

○製作課題「みんなで育てたキュウリに花が咲き、実をつけました。収穫したキュウリを食べたくないように描いてみよう」

○指導のポイント：目に見えるようになった小指くらいのキュウリが花をつけたまま、日に日に大きくなっていく様子を観察できれば一番よいが、育てていなければ植物図鑑、モニター等で成長の過程を調べてみる。

○レポートの課題：「キュウリを描こう」の振り返り

第10回授業では「みんなで育てたキュウリに花が咲き、実をつけた。収穫したキュウリを食べたくなるように描いてみよう」という設定で受講者は臨んだ。色が黄緑色から深緑色に変化しているところや手に取って太さや長さ、形、表面がどうなっているか等に注目し描いた。

○授業後の受講者の感想と考察：

「今回のように観察する機会がなければ決して気づかないことばかりだった。観察から様々な気づきを得て、新たな発見をし、より深い学びへとつなげることができる。こういった面からも園で育てた作物や子どもたちが興味を持っているものは、積極的に活動に取り入れ、描いていくべきだと思う。」

「子どもたちがキュウリの成長を振り返りながら描いていけるような話を冒頭にしたいと感じた。」

この授業では、一人一人の受講者が、実物のキュウリを持参して目の前にして描いたが、子どもたちが収穫したものであれば愛着が沸いてそれが絵にも表現できるのではないかと思ったというようなことを振り返っている受講者が多く見られた。



図19 キュウリの絵の製作事例

4-4. 粘土を中心とした製作と指導

第5回の授業では、粘土を使った造形表現を通して、幼児の指導を学ぶ内容とした。この内容は『幼稚園教育要領』の領域「表現」の内容項目の(1)

(2)(5)(7)に該当している。

第5回では、粘土(油粘土)を使って「動物園をつくろう」という題し、粘土を用いた様々な動物の製作、およびグループ討議を行った。

○目標：①粘土(油粘土)の特性とその扱いを理解する。②造形活動における幼児の粘土遊びのねらいや展開の仕方について知る。③造形活動における幼児の粘土での具体的な表現活動について体験を通して学ぶ。

○演習：「私たちがつくった動物園」

粘土をこねたり、丸めたり、細長くしたり、平にしたりするなどの経験をする。

グループをつくり、グループで話し合い、テーマを決め「動物園」を作る。

○レポートの課題：「油粘土を使って動物園をつくろう」の振り返り

○授業後の受講者の感想と考察：

「油粘土は色を塗れないので特に形を意識して作った。班のみんなと協力してたくさんの動物を作った。」「私がこの活動で気をつけた点は大まかな形だけをイメージし、参考になる画像などはないで自由に製作したところである。」「作っている途中で違う動物に変更したり、何も考えずに粘土をこねていたならそれが動物の形に見えてきたものを生かして製作した。」

以上の感想から、受講者が油粘土の特性を理解し、幼児が整形する過程を通してどのような作品を作るかを予想することができたことが伺える。



図20 油粘土の製作事例

4-5. 園庭のデザインをテーマとした授業

第11回では、幼児が興味・関心を抱き、主体的に関われる環境の構成について学ぶ内容とした。これは『幼稚園教育要領』の領域「表現」の内容全体の実現のための前提として抑えねばならない内容である。

第11回では「環境構成を踏まえた教材研究～製作物の応用、教育機器の活用」と題し、グループワークを行った。

この授業では、環境の構成について『幼稚園教育要領解説』から学び、幼児が主体的に関わり、豊かな体験をしていくことができるために園庭のデザインを考える。

○目標：造形表現において、幼児が興味・関心を抱き、主体的に関われる環境の構成の工夫を考える。

○「環境の構成」については、『幼稚園教育要領解説』第3節「環境の構成と保育の展開」では次のように明示してある。

製作活動をしようと思っても、それに必要な素材や用具が容易に使えるように用意されていないと、十分に活動を展開することはできない。また、いかにもものが豊富にあったとしても、幼児がものとの間に何のつながりも見いだせなかったり、これまでの自分の生活経験の中に位置づけられなかったりすれば、やはり主体的な活動を展開することはできない。幼児が主体的に環境に関わり、豊かな体験をしていくことができるためには、それが可能であるような適切な環境を教師が構成しなければならない。その際必要なことは、幼児の発達だけでなく、幼児の興味や関心の対象、意欲の程度、気分の状態、これまでの経験などを考慮することである。

以上のように、幼児が主体的に取り組むようにするには適切な「場」の設定が必要である。そこで、本授業では上の趣旨を踏まえた「園庭のデザイン」を受講者に検討させることにした。

○「園庭のデザインを考えよう」という課題で受講者はB4版用紙に園庭のデザインをした。それぞれ上記のポイントや安全面、四季の変化等を考

え、受講者の思いと感性を働かせて取り組んだ。○レポートの課題：「造形表現と保育者」と題して造形表現における指導者に求められるものは何かを考察する。

○授業後の受講者の感想と考察：

「自然と調和して育つ園庭ということを考え、自然をたくさん取り入れた。遊具もほとんど木を活用している。」「年齢を超えてみんなが仲良く遊べるように秘密基地のようなものを建てた。また、木や森といった自然のぬくもりをとところどころに入れたデザインにした。」

以上の感想から、受講者が幼稚園の園庭が幼児の興味・関心だけでなく、その気持ちを包むような様々な意図をもって配置されていること、自然物を有効に生かした配置を行うことの必要性、さらに安全面を考慮した夢のある園庭設計の必要性を認識できたことが伺える。

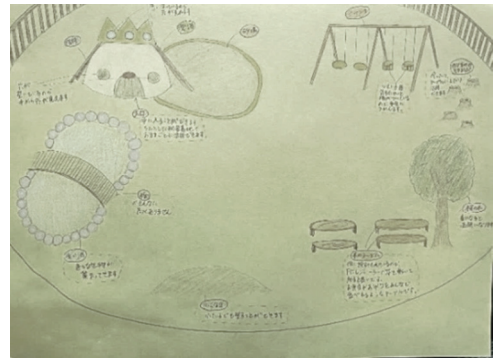


図21 園庭のデザインの製作事例

5. おわりに

受講者は領域「表現」の特性を理解し、体験と関連させながら教材や道具を選択するなど、模倣的ではあるが具体的な保育を想定し、常に幼児の姿を描きながら、意識して活動してきた。また、協働的な学びを通して対話力を高め、グループ（チーム）で課題を解決する機会を多く設定してきた。子どもの「表現」と「感性」の関わりを重視しながら、活動を通して受講者自らの感性も豊かなものになろうと実技を中心に授業を実施してきた。四季折々の行事や子どもの生活に結び付く

事象等を壁面装飾、掲示物として作成することにより、幼児教育は環境を通して行うものという大切な点を抑え、その意義についても考える機会をつくってきた。受講者の製作した造形作品に込められた思いを作品そのものからは勿論のこと、製作後の振り返りレポートからも感じ取ることができた。壁面構成には保育室を楽しくする演出や効果、子どもと保育者のコミュニケーションを促進する効果があるという思いを持って取り組んでいた。壁面装飾や掲示物作りには、子どもたちが何を日常的に目にするのか、どのような視覚的情報に取り囲まれて生活を送っているのか等は経験とともに把握されていくものだが、受講者がこの時期にその一端でも学ぶ機会があることは意味のあることだと思う。

授業も終盤にさしかかった頃、受講者に「造形表現と保育者」と題して、レポートを書く課題を与えた。以下はその一例である。

造形表現において保育者（指導者）に求められるものは、子どもたちが主体的に楽しく学ぶことができる環境を作ることだと思う。これは子どもたちに「好きなことをしていいよ」「作りたいものを作っていいよ」とすべて自由にさせるということではない。保育者が必要に応じてヒントを出したり、サポートをしたりすることにより成り立つものだと考える。前回の活動でキュウリを見て描くという授業があったが、これは保育者の指導の仕方がとても重要になってくるものだと思う。ただ、「見て真似して描いてね」と言うのではなく、「どんな色をしているかな」や「キュウリを触ってみてね」など、キュウリの特徴に気付かせる声かけを保育者がすることによって、子どもたちはキュウリをよく観察し、興味・関心を持って活動することができると思う。保育者は事前に活動の内容から子どもたちの反応を考え、何をしたら子どもたちが興味・関心を持って取り組めるか、どうしたらその内容を子どもの生活と結び付けられるかを考えることが大切だと思う。

以上からも受講者は「自由」と「放任」の違いなどにも目を向けていたことは注目に値する。

今後も、受講者に対して、造形的な思考、技能・技術、等のスキル面や感性を育てると同時に、幼児の活動を支える能力も身につけられるよう授業内容の工夫や改善をしていきたい。

受講者は1年次に「保育内容（造形表現）」、2年次に小学校「図画工作科教育法」を履修することになる。この二つの教科を履修することでそれぞれの段階にある子どもたちを俯瞰的に扱うことができ、どのように感性や表現の力、表現する喜びを育てることができるかを学ぶ。また長期的に子どもを教育する視点を養うことにより、小1プログラムの問題等、事前に想定される課題についても考えて指導に臨むことができると考えられる。

さらに、長期的に幼・小の子どもの造形面を育てる指導を学生が学ぶためのシラバスの一貫性が求められることになる。今後、シラバスの工夫改善も図っていきたい。

文献

- 井出則雄著（1969）『幼年期の美術教育』誠文堂新光社。
厚生労働省（2017）『保育所保育指針』フレーベル館。
竹井史編著（2019）『コンパクト版保育内容シリーズ⑥造形表現』一藝社。
内閣府（2017）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館。
樋口耕一（2004）「テキスト型データの計量的分析：2つのアプローチの峻別と統合」、『理論と方法』19(1)、101-115。
松浦龍子著（1999）『テーマ別楽しい幼児の絵の指導』黎明書房。
宮地明子他著（2019）『ナツメ社保育シリーズ子どもと作るわくわく楽しい壁面12か月』ナツメ社。
村内哲二編著（2019）『保育内容 造形表現の指導〔第4版〕』建帛社。
文部科学省（2017）『小学校学習指導要領』東洋館出版社。
文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説図画工作編』日本文教出版。
文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』東山書房。
文部科学省（2017）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

資料: 質問紙調査用紙

授業に関するアンケート		令和2年9月16日(水)
学籍番号 []	氏名 []	
※当てはまることに○をつけてください。		
1 本の表紙や車内広告やポスター、イベントのチラシ、ショーウィンドウのディスプレイ等を宣伝媒体としてではなく、一つの美術的表現(芸術表現)として見るがありますか。 〔 ①ある ②ない ③どちらでもない〕		
2 美術館や美術の展覧会に行ったことがありますか。行ったことがある場合は具象作品と抽象作品のどちらが好みですか。 〔①ある(具象作品 ・ 抽象作品 ・ どちらも)〕		
3 最近、何かに感動したことがありますか。 〔①ある ②ない〕		
4 学校以外で絵画教室や造形教室等に通ったことはありますか。 〔①ある ②ない〕		
5 身の回りのもので、何か好きなデザインのものがありますか。 〔①ある ②ない〕		
6 普段の生活の中で色と形では、あなたはどちらにまず目が行きますか。 〔①色 ②形〕		
7 最近、絵を描いたり、ものを作ったりしましたか。それは色重視、形重視、どちらも重視のどちらですか。 〔①した(色重視 ・ 形重視 ・ どちらも重視) ②しない〕		
8 クレヨンとクレパスの違いを説明できますか。 〔①できる ②できない〕		
9 日々の生活の中で、アートやデザインやそれらに関わる人と接する機会がありますか。 〔①ある ②ない〕		
10 この授業でどんなことを学びたいですか。 <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>		